

当社の取組みについて



2008年5月15日

KDDI株式会社

- 1. 基本的考え方 -P.2
- 2. プラットフォームの利用環境整備 -P.3
- 3. 上位レイヤーにおける市場の拡大 -P.4
- 4. 多様なサービスの提供 -P.5~10
- 5. 今後に向けた課題 -P.11
- 6. モバイルビジネスの更なる発展に向けて -P.12

1. 基本的考え方

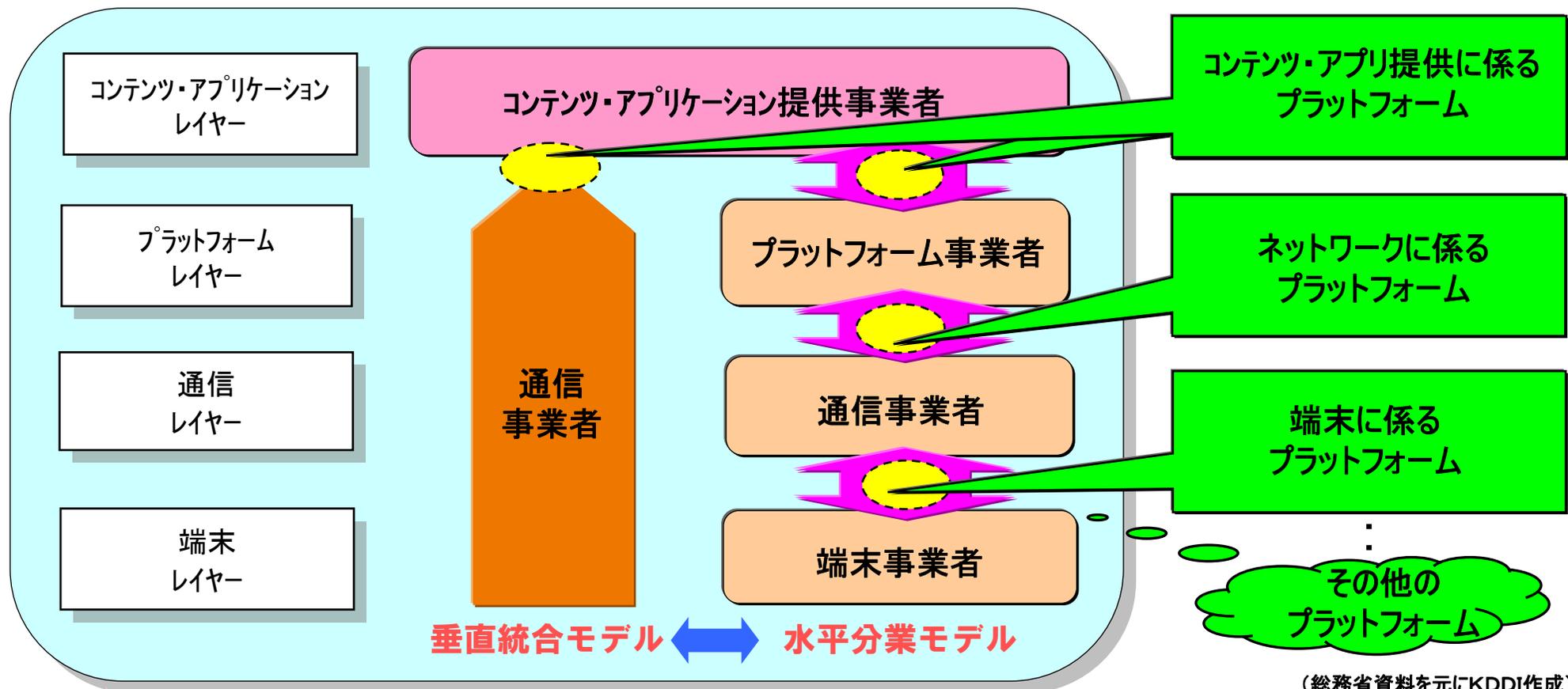
- プラットフォームについて、サービスの高度化・多様化によってお客様の利便を高める観点から、その活用の在り方について検討することは有意義。
- 技術の進化やお客様ニーズの高まりに伴って多様な主体が提供する必然性が生じた機能については、自ずと市場環境の中で利用条件が整備されていくものと認識。
- 将来的な機能の共通化に関しては、日々、技術が進化している情報通信産業においては、優れたプラットフォームの開発競争によってサービスの発展が図られることから、多様化とのバランスに配慮した検討を行うことが重要。



- 従来の垂直統合モデルを更に発展させていくことに加えて、多様な企業がプラットフォームを利用してお客様の利便を向上させることができるよう、お客様ニーズに照らして利用条件の整備を進めているところ。

2. プラットフォームの利用環境整備

○これまで当社は、お客様ニーズに対応し、多様なプレーヤーが多彩なサービスを提供できるよう、プラットフォームの利用環境を整備してきたところ。垂直・水平モデルの両輪での発展を目指す。



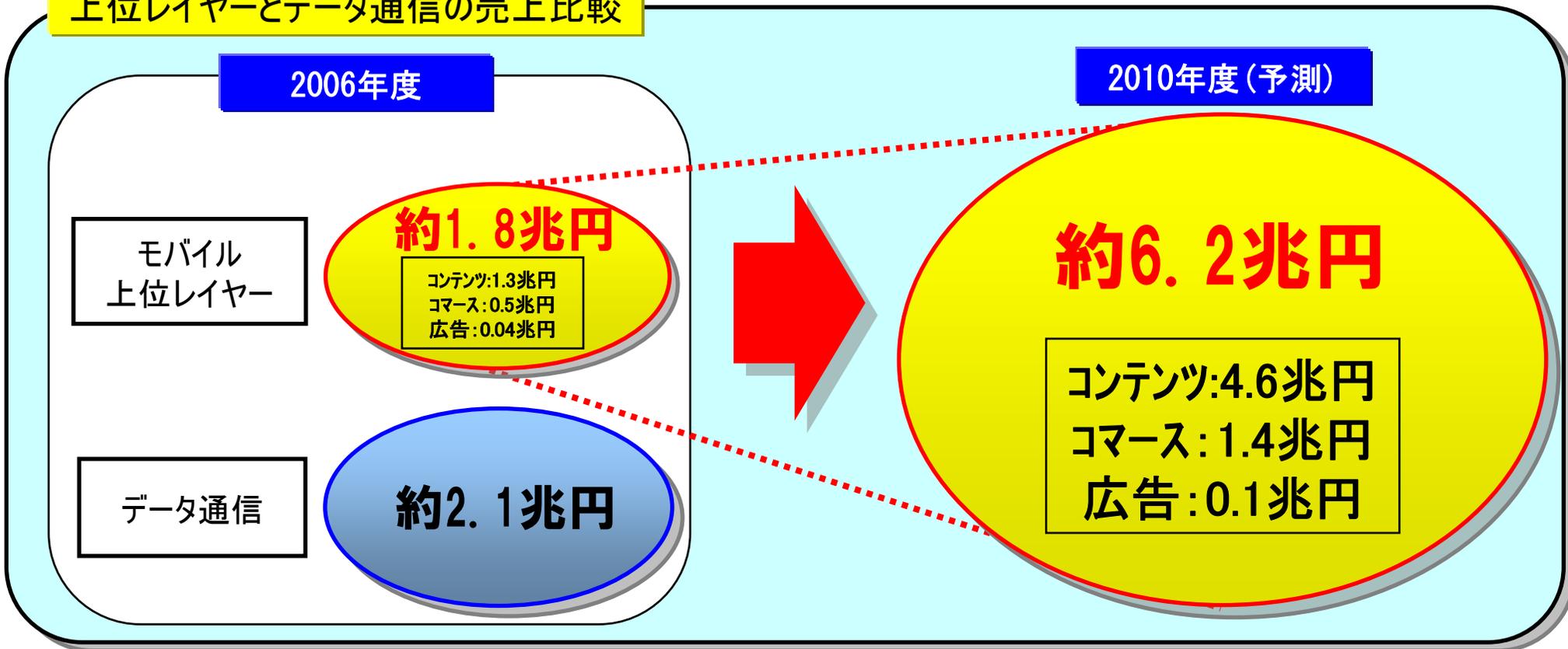
(総務省資料を元にKDDI作成)

今後、お客様のニーズに応じて、プラットフォームの利用環境整備を柔軟に検討

3. 上位レイヤーにおける市場の拡大

- 多様なプレーヤがプラットフォームを活用して競争することにより、上位レイヤーの市場は通信レイヤーを凌ぐ規模に。
- 将来的には、上位レイヤーのプレーヤーの動向にも注視し、水平・垂直モデルの両面の分析が必要。

上位レイヤーとデータ通信の売上比較



出典: 各資料を元にKDDI試算

(コンテンツ) 情報通信総合研究所「携帯電話サービス普及による日本経済への波及効果」(2007年8月24日報道発表)
 (ただし、市場における「公式コンテンツ」以外のコンテンツの割合を、2006年度=70%、2010年度=80%とKDDI推定)
 (コマース) 野村総合研究所「これから情報通信市場で何が起こるのか ~IT市場ナビゲーター2008年版~」
 (広告) 電通総研「2007年~2011年のインターネット広告費に関する試算」(2007年4月16日報道発表)
 (データ通信) 携帯3社(ドコモ、au、ソフトバンクモバイル)決算発表データ

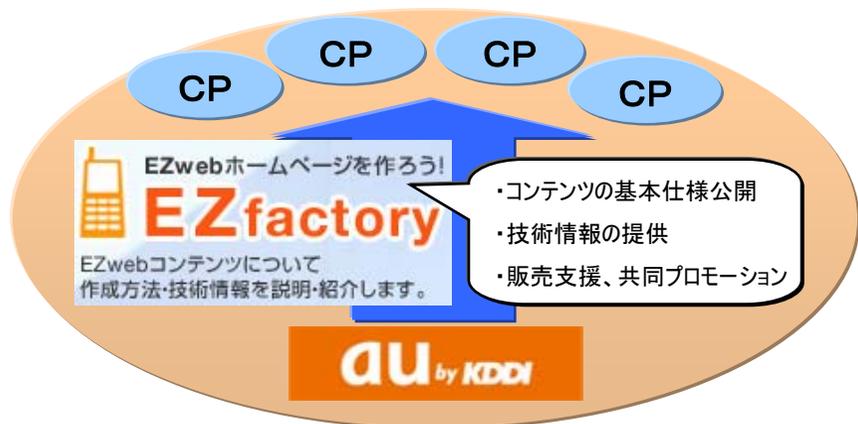
4. 多様なサービスの提供（コンシューマ向け）

○これまでに、コンテンツ・アプリケーション提供にかかるプラットフォームの仕様を、端末と連携する部分を含めて公開。多様なプレーヤがEZweb上でサービスを提供している。

お客様は、手軽に多彩なコンテンツやアプリケーションを利用することが可能

コンシューマ向けサービス開発支援

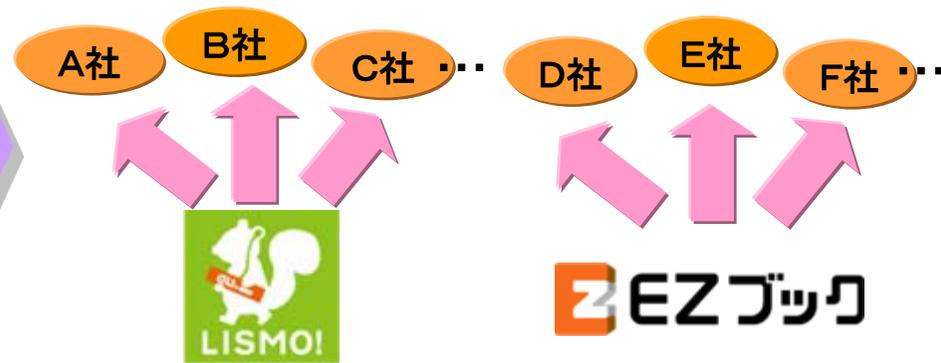
コンテンツプロバイダ向けにプラットフォーム利用のパッケージを提供



着うたフル/電子書籍

約180社が楽曲を提供

約140社が電子書籍を提供



その他、ゲームアプリなどの様々なサービスを提供

今後の取組み

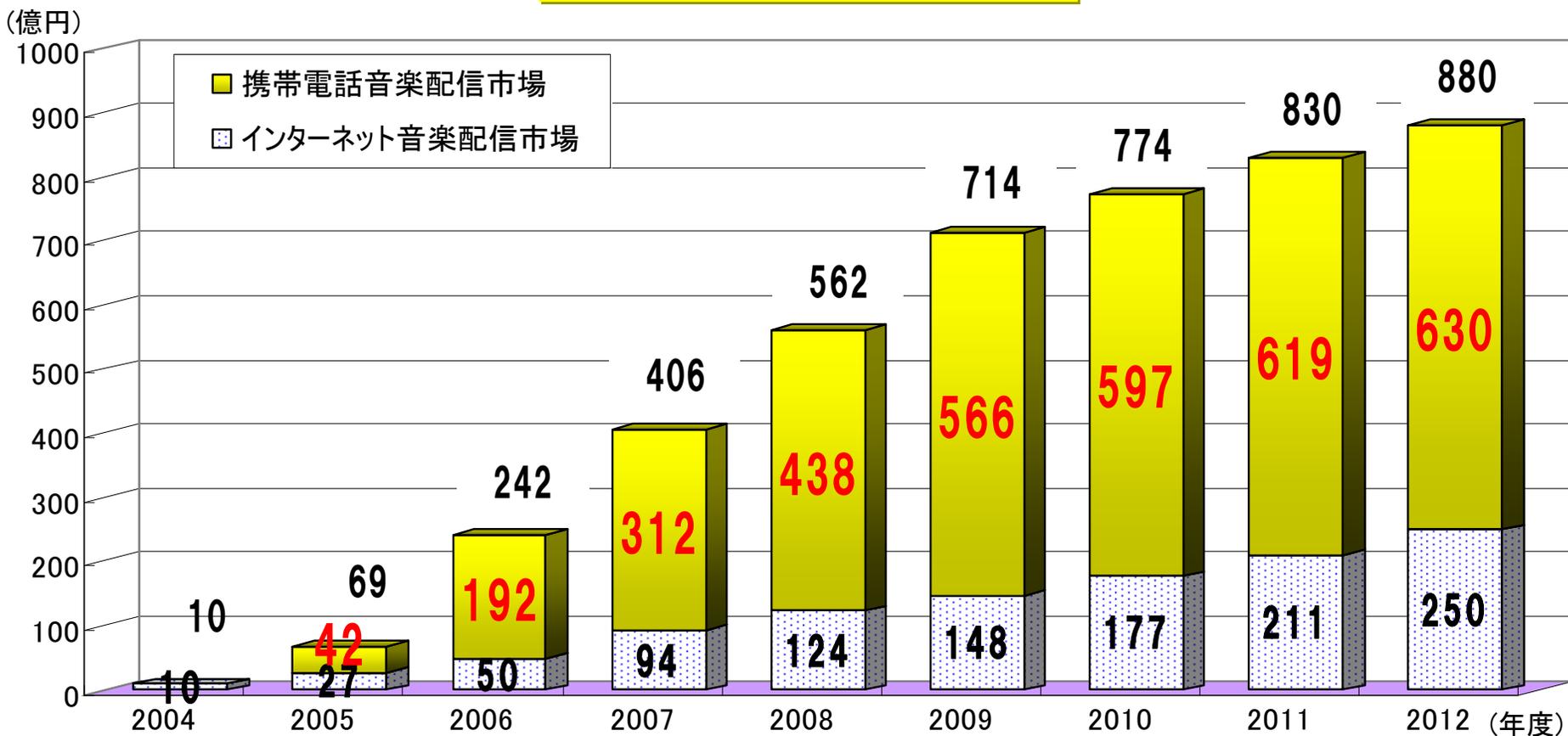
EZweb上でのビジネス利用環境の整備に加え、水平分業モデルでコンシューマ向けサービスを提供する企業が、プラットフォームを利用する際の条件も整備することを検討

4. 多様なサービスの提供（音楽配信市場の拡大）

○2010年には、音楽配信市場は770億円規模に。

○携帯電話音楽配信が、市場の7割以上を占める。

音楽配信市場規模の予測



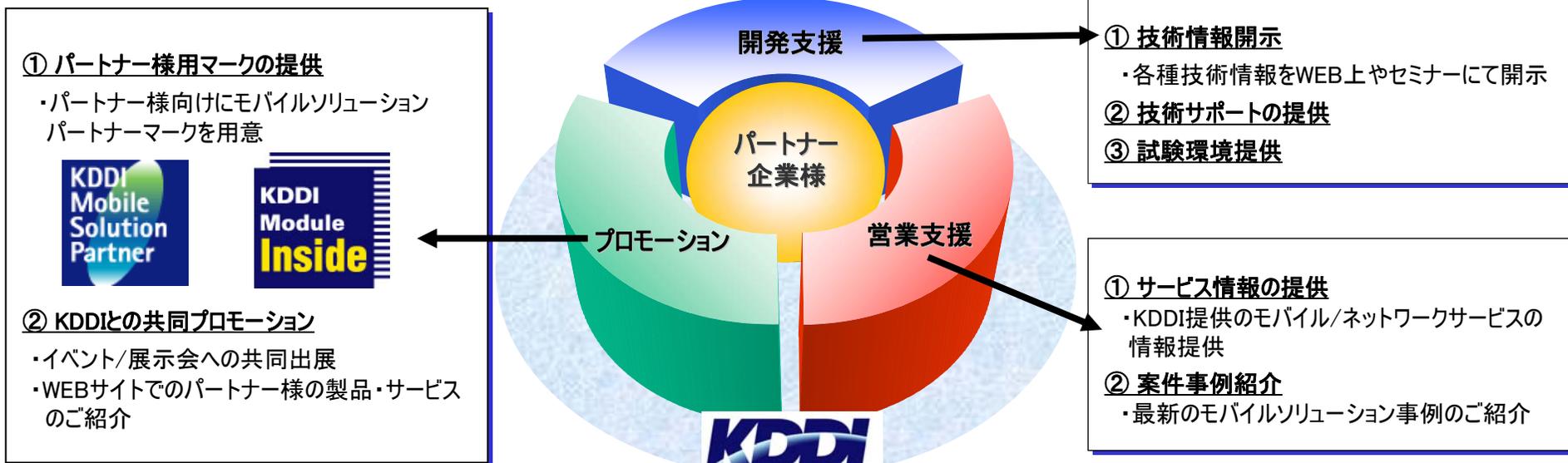
出典：野村総合研究所「これから情報通信市場で何が起ころのか ～IT市場ナビゲーター2008年版～」

4. 多様なサービスの提供（ビジネス向け①）

○法人向けサービスの提供に必要なプラットフォームを利用するための、サポートプログラムを整備。
 モジュール等により、様々な端末の利用形態でau回線を利用したサービスが利用・提供されている。

法人向けサービス開発支援

パートナー企業にプラットフォームの利用プログラムを用意（約1,300社がパートナーとして登録）



4. 多様なサービスの提供 (ビジネス向け②)

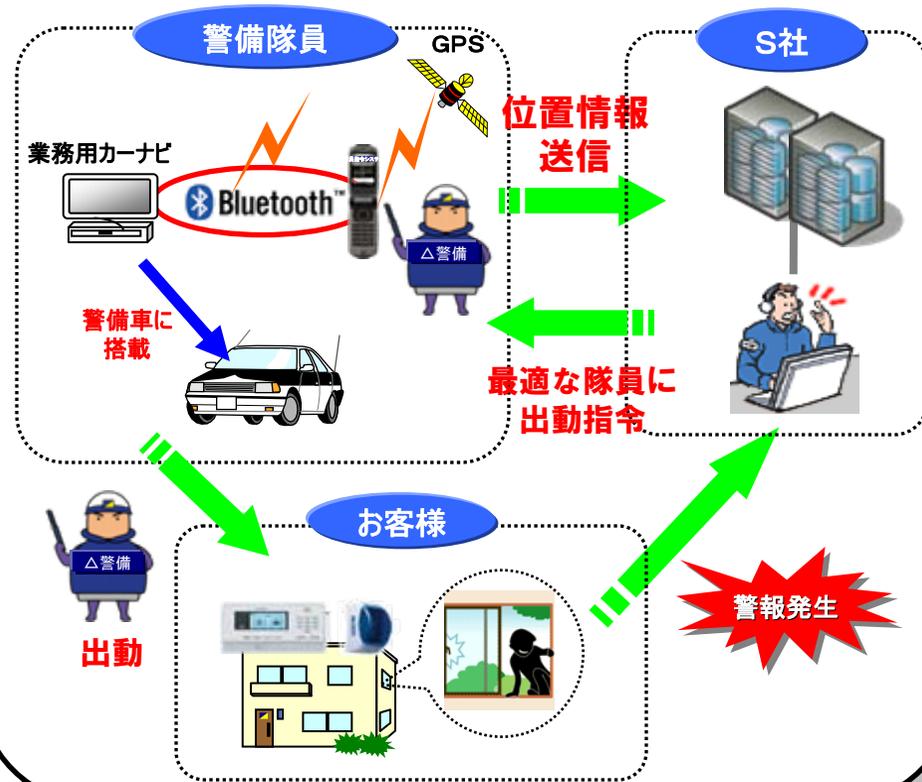
○営業支援、勤務管理、物流管理など様々なソリューションサービスが提供されている。

法人のお客様は、付加価値のある様々なサービスを利用・提供することが可能

事例1) 宅配便サービス

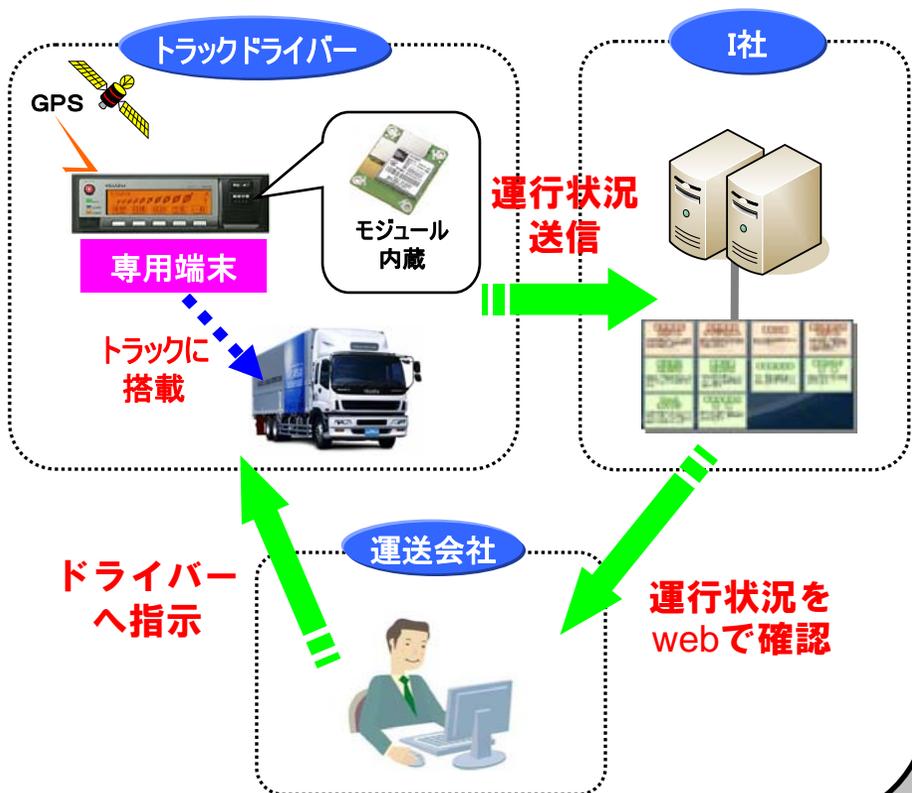


事例2) セキュリティサービス

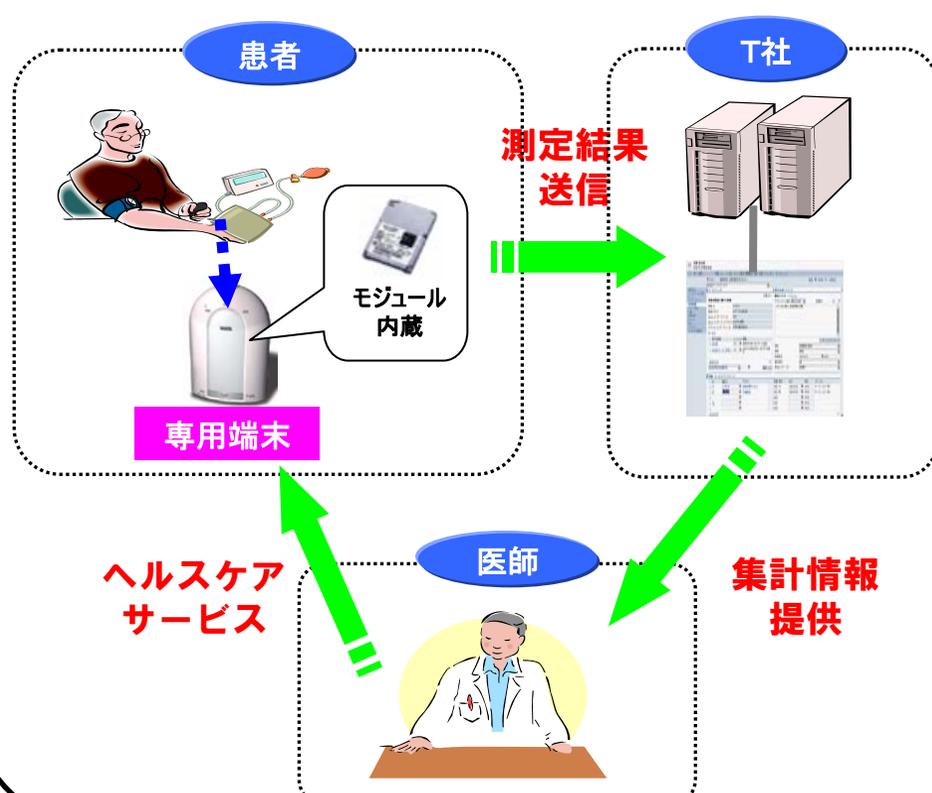


4. 多様なサービスの提供（ビジネス向け③）

事例3) 運行管理サービス



事例4) 健康管理サービス



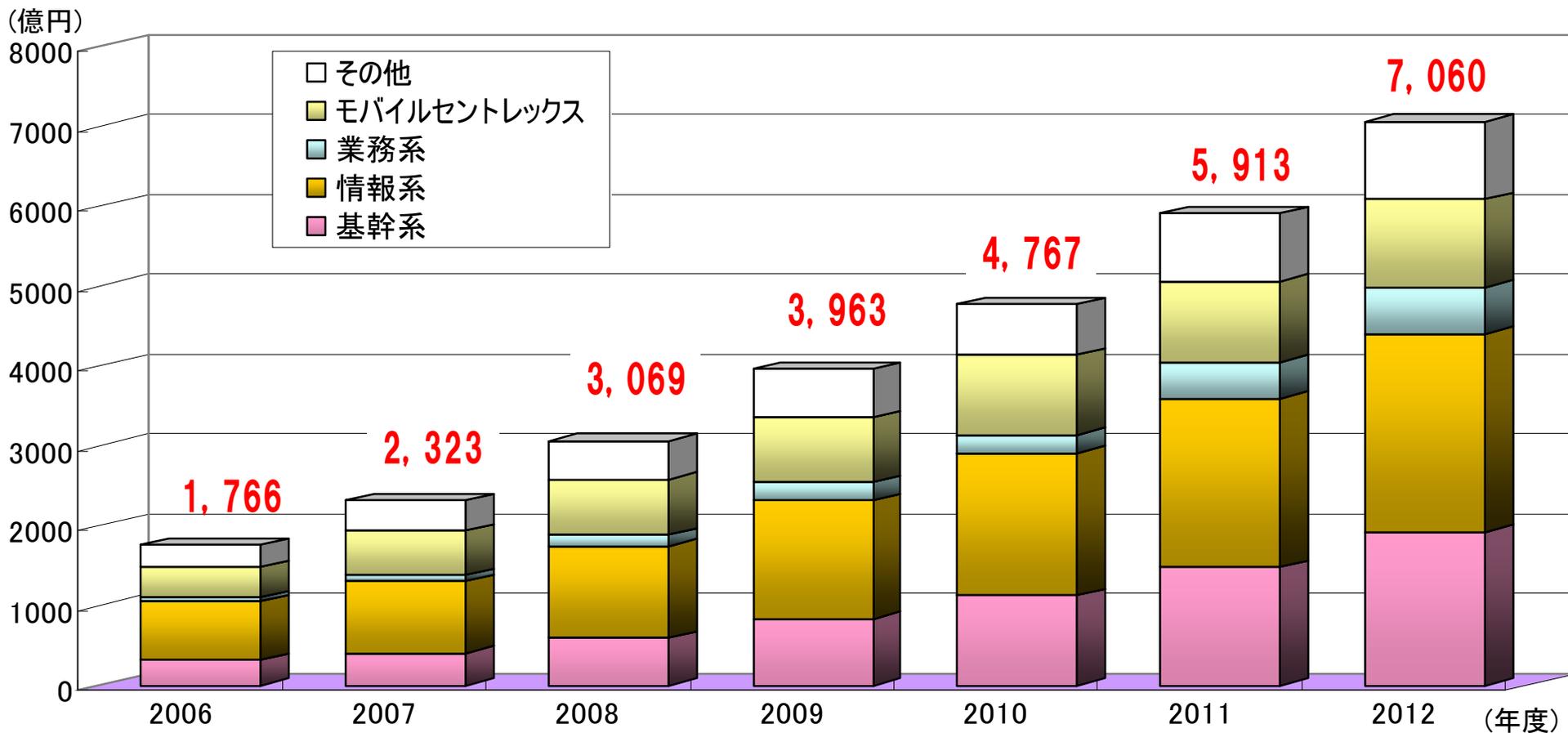
今後の取組み

- サポートプログラムに加え、独自にビジネス向けサービスを提供する企業が、プラットフォームを利用する際の条件も整備することを検討
- 多様な端末の普及に向けた取組み(モジュール、API公開)や、ネットワークの利用条件整備(卸料金の標準プランなど)を更に推進

4. 多様なサービスの提供（モバイルソリューション市場の拡大）

○モバイルソリューション市場は年約26%のペースで成長し、2010年には4,700億円規模に。

モバイルソリューション市場規模の予測



出典：野村総合研究所「これから情報通信市場で何が起ころのか ～IT市場ナビゲーター2008年版～」

5. 今後に向けた課題

- お客様利便を高めるための「差別化」「多様化」とのバランスをとる上では、「オープン化」「共通化」の方向性は、自由競争に委ねることが適当。
- 消費者保護の観点では、セキュリティの確保や責任分担の在り方にも十分配慮する必要がある。

プラットフォームの利活用

- ▶ オープン化にあたっては、各社が創意工夫して競争する開発インセンティブを確保する必要があることに留意しながら、お客様利便を高めることが重要。

端末の共通化

- ▶ 端末プラットフォームには、共通化することで多様な端末が供給される可能性が高まる部分と、共通化すると差別化の余地がなくなり、サービスの多様性の妨げとなる部分が存在。双方のバランスに留意した検討が必要。

IDポータビリティ

- ▶ セキュリティ確保(個人情報保護)に配慮するための具体的検討が必要。また、国際的なID仕様統一の動きも注視すべき。

責任分担

- ▶ 事業者やメーカー、コンテンツプロバイダ等の様々なプレーヤが参入し、市場が活性化。特に水平分業モデルでは、障害や故障が発生した際の、お客様に対する各プレーヤの責任の範囲を明確化し、広く周知することが必要。

6. モバイルビジネスの更なる発展に向けて

○今後も、当社は、プラットフォームの利用環境の整備を積極的に進め、お客様利便の向上、モバイルビジネスの更なる発展を実現。

垂直統合モデル・水平分業モデルの両輪で、モバイルビジネスの更なる発展に貢献

